

鳥糞に擬するクモ数種

八木 沼 健 夫

On Some Japanese Spiders of *Cyrtarachne* and *Ordgarius*

Takeo Yaginuma

Biological Laboratory, Otemon Gakuin, Osaka

鳥糞に擬態する邦産のクモとしては *Cyrtarachne*, *Paraplectana*, *Ordgarius* (以上コガネグモ科) や *Phrynarachne* (カニグモ科) などの属があるが、何れも熱帯系分子で本州中部以南に主として分布する。クモの熱帯性のものの分布北限は多少のずれはあるが大體植村線 (ナカムラオニグモ線) であるが、これらのうち *Cyrtarachne* や *Phrynarachne* はこの線を突破してかなり北上を示している。筆者は昨年兵庫県粟鹿山で *Cyrtarachne* やさきに発表した *Arachnura* などをとつていたので大體このあたりが北限ではなからうかと考えられる。以下記述する種は恐らく本県ですべて発見される可能性があるから県下各位の御注意を御願いたい。 *Ordgarius hobsoni* など今所の本県が北限である。

今回は以上の属のうち *Cyrtarachne* と *Ordgarius* の2属に限定して記述する。これらの種は未だ図鑑その他に於て図も解説も試みられていないためクモ研究者以外にはあまり知られていない。しかしちよつと注意すれば誰でもとれるクモであるから山地の樹木の葉うらに注意ぶかく観察されたい。時には思いがけなく低い所にいることもある。葉うらに脚をちぢめて静止している様は鳥の糞そつくりの形をしている。この形態が果して生命維持に役立つのかどうかは疑問としても、少くとも我々の目はごまかされることが多い。 *Ordgarius* 以外はそう珍品というものではないが、そのおもしろい形と、往々見逃しやすいところからクモ採集家たちに珍重がられるクモである。生態などもまだほとんど分っていないグループで今後の研究の余地は大きい。

Cyrtarachne はここに記述する4種以外にも若干居るが、何れも種名が決定されて居ず、この中には新種とすべきものもあり、これらについては改めて発表する予定である。

Cyrtarachne Thorell

トリノフンダマシ属

Thorell: Eng. Resa, Arach., p. 10, 1868

Simon: Hist. Nat. Araign., 1, p. 880, 1895

(Syn. *Cyrtogaster* Keyserling 1863, *Peltosoma* Simon 1873, *Dema* Karsch 1878)

標徴: 頭部中凸であるが低い。中腿は突出せず、中眼域は巾が長さより稍々大。腹部大きく巾が長さにまさるものが多い。腹部中央及び前方に筋点がある。頭胸部に何等武装が見られない。

1. *Cyrtarachne bufo* (Bösenberg et Strand) 1906

トリノフンダマシ (Fig. C)

Poecilopachys bufo, Bös. & Str., Abhand. Senck.

Natur. Ges. XXX, p. 241, 1906

頭胸、腹部、脚共に黄白色で腹部前方のみ灰褐色を帯びる。腹部の巾はひろく前方両肩に低い隆起がある。隆起周縁は白線でかこまれるが完全な円形をなさぬ場合が多い。隆起上面は灰褐で白斑のないのが普通である。筋点は前方の3個、中央の2個が明瞭で他ははつきりしない。柿、竹、カシなどの葉うらに静止し屋間は活動しない。夜間に同心円状の円網を張るが朝までにたたんでしまうため長い間この網性が知られなかつた。卵のうは球形、体長1cm内外、♂は未だ知られていない。他の種から判断しておそらく1~2mm位の小さなものにちがいない。

分布: 本州、四国、九州、(兵庫県口粟鹿山)

2. *Cyrtarachne inaequalis* Thorell 1895

オオトリノフンダマシ (Fig. A)

Cyrtarachne inaequalis Thorell, Desc. Cat. Spid.

Burma, p. 201, 1895; Pocock, Fauna Brit. India.

(Arachnida) p. 229, 1900

前種に似ているが大形、腹部は長さ巾に等しいが、少しく長く、末端前種のように丸くなく稍々とがる。全体黄色で肩隆起は大きく灰色であるが、周縁の白い環が明瞭でさらにそのまわりに暗色の大きい環が目立つ。隆起上の灰色の部分に不規則な白斑が多数ある。成熟したものでは腹部前方は濃い灰色を呈する。筋点は前方の3個、中央の2個、後方の2個が大きく明瞭である。腹部下面は黒色で、♀の外性器の Scape は先がとがる。体長 12~13mm。前種と同様の習性がある。♂は極めて小さく体長 2mm 位。卵のうは長紡錘

形。

分布： 本州、四国、九州

(兵庫県 粟鹿山)

備考： 本種は従来前種 *Cyrtarachne bufo* と混同されていたが、明らかに別種である。また筆者がかつて同定した *Cyrtarachne raniceps* はすべて本種であることを確認したのでここに訂正しておく。

3. *Cyrtarachne yunoharuensis* Strand 1916

アカイロトリノフンダマシ (Fig. B)

Cyrtarachne yunoharuensis, Strand, Archiv Naturg. A. 11, p. 81, 1916

体長5~6mm位の小形のクモ。腹部濃赤色の地に図のような多数の白斑があり、両側に1個ずつの黒斑が目立つ。葉うらに静止している様はテントウムシをほうふつさせる。赤色部が完全に黒い黒化型も時折見うける。♂は小さく1mm余り。

分布： 本州、四国、九州(兵庫県 未知)

4. *Cyrtarachne nagasakiensis* Strand 1916

シロオビトリノフンダマシ (Fig. D)

Cyrtarachne nagasakiensis, Strand, Archiv Naturg. A. 11, p. 81, 1916

中型のトリノフンダマシで、全体褐色。腹部前方に横に長い巾広の白帯があるのが著しい特徴である。体長7~8mm。♂は褐色小形1mm余り、腹背に多数の小突起がある。♀♂共に Simon の *Cyrtarachne tuberculifer* によく似ている。

分布： 本州、四国、九州(兵庫県 淡路島)

Ordgarius Keyserling

イセキグモ属

Keyserling: (in Koch), Arachn. Austral. p. 114, 1886

Simon: Hist. Nat. Araign. 1, p. 885, 1895

(Syn. *Notocentria* Thorell 1894, *Eunesiotetes* Rainbow 1899)

標徴： 体全体はトリノフンダマシに似た感じであるが、頭胸部背面に歯状突起がある。頭胸部長く、中凸。前中眼間は前方に突出し、額は垂直。腹部は大形で巾が長さにより、表面に突起或いは瘤状隆起あり、歩脚に輪紋あり脛節は彎曲する。

1. *Ordgarius hobsoni* (O. P. Cambridge) 1877

マメイタイセキグモ (Fig. E)

Cyrtarachne hobsoni, O. P. Cambridge, P. Z. S. p. 562, 1877; *Ordarius hobsoni* Pocock, Fauna Brit. India (Arachnida) p. 230, 1900; 岸田久吉、動雑 Vol. 45, No. 531, p. 30, 1933; 八木沼健夫、Acta Arachnologica, Vol. 6, No. 4, p. 120, 1941;

同上, ATYPUS No. 7, p. 28, 1954

頭胸部に突起があり、前方には2個がたてに、後方には2個が横にならぶ。腹部は巾が長さにより黄褐色の地に灰色の2本の横帯があり、前方には黄白色の三角形斑がある。腹部背面から側方後方にかけて多数の瘤状隆起があり先は褐色の半球状をなす。歩脚には各節に輪紋がある。体長8~9mm。♂は未知、卵のうは球形で黒色、表面に多数の突起がある。インド、セーロンに分布する熱帯性のもので我国で採集された記録も少い。屋間は葉うらに止つているが、余程注意しないと発見は困難である。従来の採集記録次の通り

個体数

第1回	昭和7年	愛媛県	高橋 幸雄氏♀1
第2回	7年	和歌山県	植村 利夫氏♀1
第3回	17年	兵庫県	菊地 政雄氏♀1
第4回	24年	高知県	中平 清氏♀1
第5回	29年	大阪府	八木沼 健夫♀1
第6回	30年	岡山県	大熊千代子氏♀2

及び卵のう

第7回	31年	大阪府	八木沼 健夫 古1
第8回	32年	宮崎県	松山 紘一氏 古2

今後も各地で発見される可能性はあるが、上記採集地はどれも植村線以南である。

因みに台湾からも竇嶋泉氏によつて報告されているが(台湾の蜘蛛1943) 同書第十三図版の図は、本種ではなくて *Pasilobus* 属のものである。(恐らく *Pasilobus bufoninus* Simon であろう)。

分布： 本州、四国、九州(兵庫県川辺郡花屋敷)

2. *Ordgarius sexspinosus* (Thorell) 1894

ムツトグイセキグモ (Fig. F)

Notocentria sexspinosus, Thorell, Bih. Sv. Vet.-Akad. Handl. XX. p. 48, 1894; Thorell; Desc. Cat. Spid. Burma, p. 200, 1895; *Ordgraius sexspinosus*, Pocock, Fauna Brit. India (Arachnida) p. 230, 1900

頭胸部濃褐色で前方に2本のとがった突起があり前のものは短く後のものは長い。さらにその後方に基部癒合した4突起あり2本は上前方2本は側方を向く。腹部両肩の緑褐色の低い隆起上に若干の黒色の小隆起あり、腹部後端には4本の突起が2本上側、2本下側に後方を向いて突出している。腹部前方には白色の網状斑があり網の中は黒褐色である。体長10mm。

本種は採集記録極めて少く既知産地は次の2個所のみ。

第1回	昭和26年	北山峡	八木沼 健夫 ♀1
-----	-------	-----	-----------

(三重県粉所)

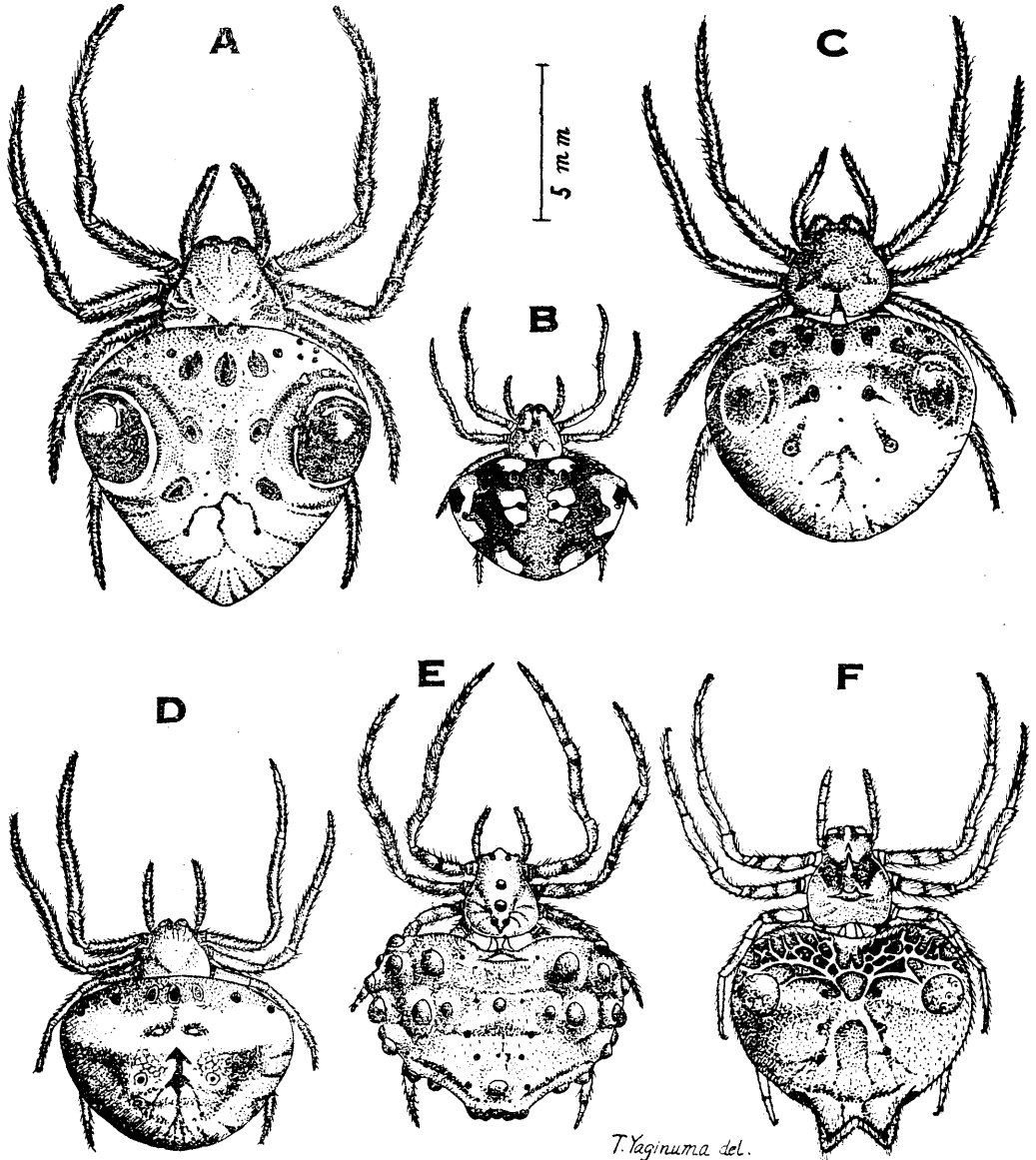
第2回 昭和27年 福岡県 大熊千代子氏 ♀1
網性、卵のう、♂何れも不明

分布：本州、九州（兵庫県知未）

以上6種につき概説したが、何れも拙篇「クモの世界を深る」（アサヒ写真ブック29）に写真を掲げてあるから、御参照願いたい。

鳥糞に擬するクモは上記以外で日本から知られているものに次のものがあるが機を見て紹介する。

1. *Paraplectana japonica* B. et S. 1906
2. *P. sakaguchii* Uyemura 1938
3. *Phrynarachne katoi* Kishida (Chikuni 1955)
4. *P. honsiensis* Kishida.



T. Yaginuma del.

A *Cyrtarachne inaequalis* Thorell オオトリノ
フンダマシ

C *C. bufo* Bös. et Str. トリノフンダマシ

E *Ordgarius hobsoni* (O. P. Cambridge) マメイ
タイセキグモ

B *C. yunoharuensis* Strand アカイロトリノフ
ンダマシ

D *C. nagasakiensis* Strand シロオビトリノフ
ンダマシ

F *O. sexspinosus* (Thorell) ムツトゲイセキグモ
(以上6種は同拡大率) 八木沼健夫原図